

第1学年 国語科 年間計画

学期	単元	教材名	学習内容を通して身につけたい力
1学期	学びをひらく	詩 野原はうたう	・気に入った言葉に気持ちを込めて、声に出して読むことができる。
		小説 花曇りの向こう	・場面や登場人物の描写に着目して内容を読み取ることができる。 ・人物の気持ちの変化をとらえ、題名に込められた意味を考えることができる。
		わかりやすく説明しよう	・説明する目的や相手を明確にし、わかりやすい構成を考えて書くことができる。
	新しい視点へ	説明文 大根は大きな根	・説明文を読んで段落のまとめや働きを理解することができる。
		説明文 ちょっと立ち止まって好きなものを紹介しよう	・自分の伝えたいことを整理し、わかりやすい発表ができる。
	言葉をつなぐ	詩の世界	・表現の特徴をとらえ、描かれた情景を想像することができる。
	文法	随筆 空を見上げて	・言葉について考えを深めることができる。
言葉の単位		・言葉の単位について知り、言葉のまとめについて理解を深める。	
2学期	つながりの中で	物語 大人になれなかった弟たちに	・厳しい時代や状況を生きた人の姿から自分の物の見方や感じ方を見つめなおすことができる。
		調べたことを報告しよう	・調べた内容がわかりやすく伝わるように文章にまとめることができる。
	いにしへの心にふれる	音読 いろはうた	・古文の言葉の響きや調子に読み慣れることができる。
		古文 月に思う	・さまざまな古典の作品と現代の生活とのつながりを考えることができる。
		古文 蓬萊の玉の枝	・仮名遣いに注意したり、リズムを味わったりしながら音読し、古典の文章に読み慣れることができる。 ・興味や関心を持って古典の世界に触れることができる。
		漢文 今に生きる言葉	・中国の古典に関する言葉が、今も生活の中に生き続けていることを理解することができる。
	論旨を捉えて	説明文 幻の魚は生きていた	・中心となる言葉に着目して、要旨をとらえることができる。 ・筆者の物の見方や考えをもとに、人間の生活と生き物や環境との関係について考えを深めることができる。
		討論 流れを踏まえて話し合う	・話し合いの話題や方向を的確にとらえ、根拠を明確にして話し合うことができる。
		書写 毛筆	・楷書の筆使いを理解し書くことができる。
	文法	文の組み立て	・文節の働きについて理解することができる。
3学期	自分を見つめて	小説 少年の日の思い出	・登場人物の心の移り変わりを捉え、作品を読み深めることができる。
	文法	単語の分類	・十種類の品詞と体言、用言の区別を理解することができる。
	1年間の学びを振り返ろう		・学んだことの中から題材を選び、構成を工夫して話すことができる。
通年	帰り学活前の10分間で、既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟を図る。		

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をせず、授業に必要なものは机の上に出して準備しておく。
2. 授業に積極的に参加する。(話し合い活動や挙手などに取り組む。)
3. わからないことをすぐに人に聞くのではなく、自分で考えて自分の言葉で言えるようにする。
4. ノートは、黒板を写すだけではなく、先生の話で重要だと思ったことや参考になる友達の意見も書いていく。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。 → その日の習ったことはその日に理解する。
 - ・教科書の文章や問題をよく読む。
 - ・授業のノートやメモ、プリント等を見る。
 - ・問題練習・・・国語のワーク、漢字のワークをする。
2. 宿題は必ず行う。
3. 少しずつでも毎日勉強する。(音読、漢字練習等) 国語辞典、漢和辞典と仲良くなる。
4. 授業内容に関連した本を読む。

第1学年 社会科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学 期	地理的分野 第1部 世界のさまざまな地域	1節地球をながめて 2節いろいろな国の国名と位置	地球表面の様子や地球儀を使って世界地図を捉え、地球上の位置の表し方や球面上の位置関係を捉える技能や知識が身に付き、地球について空間的に考えることができる。
	第1章世界の姿	3節緯度と経度 4節地球儀と世界地図の違い	地球儀や地図を活用して、世界的分野から見た国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追及できる。
		緯度が違うと何が違う？世界の略地図	地球儀や世界地図に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめられる。世界の地域構成をふまえて大まかに世界の略地図を描くことができる。
	第2部1章日本の姿	1節 世界の中で日本の位置 2節 時差でとらえる日本の位置 3節 日本の範囲 4節 都道府県と地域区分 5節 さまざまな地域区分と略地図	地球儀や地図を活用して、世界から見た国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追求することができる。 日本地図を活用して、都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。
	第2章世界各地の人々の生活と環境	1節世界のさまざまな生活と環境	世界各地の人々の生活と環境の多様性に対する関心を高め追及できる。
		2節暑い地域の暮らし 3節乾燥した地域の暮らし 4節温暖な地域の暮らし 5節寒い地域の暮らし	世界各地の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けた人々の生活のようすとその変容をもとに考察し表現できる。
		6節高地の暮らし 7節世界各地の衣食住とその変化	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、適切に選択してまとめることができる。
	第2部日本のさまざまな地域	8節世界の食文化とその変化 9節宗教と生活とのかかわり	世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然及び社会的条件と関連付けた人々の生活の様子と変容の理解と、その知識を身につけることができる。
	第4章身近な地域の調査	1地域の調査テーマを決めよう 2仮説を立てて調べる方法を考えよう 3実際に調査してみよう 4資料を集めてさらに深めよう 5調査結果をまとめて発表しよう	直接経験地域を学習対象とし、身近な地域に対する理解と関心を深めるとともに、市町村規模の地域的特色を捉える視点や方法を身につけることができる。
	第3章「世界の諸地域」	1節アジア州	世界の諸地域の地域的特色に関する関心を高め、追及しようとするすることができる。 世界の諸地域の特色を各州にくらす人々の生活のようすと把握できる主題をもとに考察し、その過程や結果を表現できる。
2 学 期	地理的分野		
	第3章「世界の諸地域」	2節ヨーロッパ州 3節アフリカ州 4節北アメリカ州 5節南アメリカ州 6節オセアニア州	世界の諸地域の地域的特色に関する関心を高め、追及しようとするすることができる。 世界の諸地域の特色を各州にくらす人々の生活のようすと把握できる主題をもとに考察し、その過程や結果を表現することができる。 世界の諸地域の地域的特色に関する資料を収集し、情報を選択して、読み取ったりまとめる力。 世界の諸地域について、各州にくらす人々の生活のようすと把握できる主題をもとに地域的特色と、その知識。
	第4章「世界のさまざまな地域の調査」	移行措置により、第三章に含み、学習を行う。	世界の諸地域に対する理解と関心を深めるとともに、各国の地域的特色を捉える視点や方法を身につけることができる。
	歴史的分野		
第1章歴史の流れをとらえよう	1節 歴史学習のはじめに・歴史の大きな流れを見てみよう・歴史の調べ学習するには	世界の古代文明や宗教のおこりに関心を高め、古代までの日本の大きな流れについて追及できる。 古代文明の特色や宗教のおこりや古代までの日本の大きな流れについて考察し、その過程や結果を表現できる。	
第2章古代までの日本	2節世界の古代文明と宗教の起こり 3節日本列島の誕生と大陸との交流 4節古代国家の歩みと東アジアの世界	古代における国家の形成、天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などについて、資料を収集し、情報を読み取ったりまとめられる。 日本列島における人々の生活の変化、古代国家の形成のあらましについて、東アジアを中心とした世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけることができる。	
3 学 期	歴史的分野 第3章「中世の日本」	1節武士の台頭と鎌倉幕府	武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界とのかかわりに対する関心を高め、意欲的に学習できる。 武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界とのかかわりなどについて考察し、その過程や結果を表現できる。
	第4章近世の日本	2節東アジア世界との関わりと社会の変動 移行措置により、イスラム文化に関する学習を行う。 1節ヨーロッパ人との出会いと全国統一	東アジアにおける交流について着目し、モンゴル帝国の拡大の様子を背景に考察することができる。 中世の政治の展開、経済の発達と社会の変化、文化の広がりに関する資料を収集し、情報を選択して、読み取ったりまとめられる。 新航路の開拓を確認し、その背景となるアジアの交易やムスリム商人などの役割と世界の結びつきや宗教改革について追及できる。
通年	帰学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

<ol style="list-style-type: none"> 1. 準備物がそろっている。 2. 先生の話をしっかり聞く。 学習内容を説明しているとき、活動内容の指示を出している時、課題の説明をしている時など、集中して聞く。 3. 調べ学習やグループ活動、課題に取り組んでいるときなどは、分からないことがあればその時に積極的に質問し解決に努める。 4. 「わからないところ」をわからないままにせず、先生や友だちに質問をする。
--

II 家庭での学習

<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習を中心に学習する。 → その日習ったことをその日に理解する。 ・その日習った部分のワークの問題に取り組む。 ・教科書とノートを見直し、自分の意見や考えをまとめる(ポイント整理)。 2. 次の授業に備えて、教科書を1度読んでおく。
--

第1学年 数学科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	1章 正の数・負の数	1. 正の数・負の数 § 1. 0より小さい数 § 2. 正の数・負の数の量を表すこと § 3. 絶対値と数の大小 2. 正の数・負の数の計算 § 1. 正の数・負の数の加法、減法 § 2. 加法と減法の混じった計算 § 3. 正の数・負の数の乗法、除法 § 4. 乗法と除法の混じった計算 § 5. いろいろな計算 § 6. 数の世界のひろがりや四則演算 3. 正の数・負の数の利用 4. 素数の積	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナス、プラス、正の数、負の数などの意味を理解する。 ・反対の性質を持つ量や基準を決めたときの量を表す数として、正の数・負の数が使われていることを理解する。 ・ある数の絶対値を求めたり、2数の大小関係を不等号を使って表したり、数直線を用いてある数より大きい数、小さい数を求めたりすることができる。 ・正の数、負の数の加法、減法の計算ができる。 ・加法と減法の混じったいろいろな式を手際よく計算することができる。 ・正の数、負の数の乗法、除法の計算ができる。 ・逆数や乗法の交換・結合法則を使って、乗除の混じった式の計算ができる。 ・指数をふくむ式や四則をふくむ式の計算ができる。 ・数を拡張することで四則計算の可能性が広がるという見方ができる。
	2章 文字の式	1. 文字を使った式 § 1. 数量を文字で表すこと § 2. 文字式の表し方 § 3. 式の値	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性や意味を理解する。 ・文字式を書くときの約束に従って、数量を文字を使って表すことができる。 ・文字に数を代入して、式の値を求めることができる。
2 学期	3章 方程式	2. 文字式の計算 § 1. 文字式の加法、減法 § 2. 文字式と数の乗法、除法 § 3. 関係を表す式 1. 方程式 § 1. 方程式とその解 § 2. 方程式の解き方 § 3. 比と比例式 2. 方程式の利用 § 1. 方程式の利用、比例式の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・一次式の加減の計算が手際よくできる。 ・一次式と数の乗除の計算やかつこのある計算など、複雑な計算が手際よくできる。 ・数量の関係を、目的に応じて何通りかの等式や不等式に表すことができる。 ・ある数が方程式の解であるかどうかを、確かめることができ、等式の性質を使って簡単な方程式を解くことができる。 ・移項して方程式を解くことができ、方程式を解く手順に従って、いろいろな方程式を解くことができる。 ・簡単な比例式を解くことができる。 ・方程式や比例式を利用して問題を解決し、その過程を振り返って考えることができる。
	4章 変化と対応	1. 関数 § 1. 関数 2. 比例 § 1. 比例の式 § 2. 座標 § 3. 比例のグラフ 3. 反比例 § 1. 反比例の式 § 2. 反比例のグラフ 4. 比例、反比例の利用 § 1. 比例、反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ともなって変わる数量の関係を見いだすことができる。 ・2つの数量関係に着目し、変化や対応から比例の関係を見だし、式に表すことができる。 ・座標平面に表された点の位置を読み取ったり、与えられた点を座標平面に表したりすることができる。 ・比例のグラフをかいたり、グラフから比例の式を求めたりすることができる。 ・2つの数量関係に着目し、変化や対応から反比例の関係を見だし、式に表すことができる。 ・反比例のグラフをかいたり、グラフから反比例の式を求めたりすることができる。
	5章 平面図形	1. 直線図形と移動 § 1. 直線と角 § 2. 図形の移動 2. 基本の作図 § 1. 基本の作図 3. 円とおうぎ形 § 1. 円とおうぎ形の性質 § 2. 円とおうぎ形の計量	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの事象を、比例、反比例の見方や考え方を通して考え、問題の解決に利用することができる。 ・用語・記号を理解し、正しく使うことができる。 ・平行移動、回転移動、対称移動の意味を理解し、それらの基本的な性質を見いだすことができる。 ・垂直二等分線、角の二等分線、垂線の作図ができる。 ・円の接線の性質を使って接線をかいたり、半径と中心角がわかっているおうぎ形をかいたりできる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積、中心角を求めることができる。
3 学期	6章 空間図形	1. 立体と空間図形 § 1. いろいろな立体 § 2. 空間内の平面と直線 § 3. 立体のいろいろな見方 2. 立体の表面積と体積 § 1. 立体の表面積 § 2. 立体の体積 § 3. 球の計量	<ul style="list-style-type: none"> ・用語や立体の見取図、展開図について理解する。 ・立体の辺や面について、その位置関係を理解する。 ・平面図形や線分を、ある条件のもとで動かしたときにできる立体の性質を理解するとともに、投影図について理解し、立体についてのいろいろな見方ができる。 ・立体の表面積を求めることができる。 ・立体の体積を求めることができる。 ・球の表面積と体積を求めることができる。
	7章 資料の活用	1. 資料の傾向をとらえ説明しよう § 1. 度数分布 § 2. 代表値と散らばり § 3. 調べたことをまとめ、発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の傾向を読み取るのに、度数分布やヒストグラム、相対度数や累積度数など用いて、資料を整理することができる。 ・範囲、平均値、中央値、最頻値を求めることができる。 ・統計的確率の必要性を理解し、意味を理解することができる。 ・資料を収集、整理することができ、資料の傾向を読み取り、説明することができる。
通年	帰学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をしない。
2. 先生の説明や友達の発言をしっかり聞く。
3. ノートはただ黒板を写すだけでなく、考えながら書いていく。必要に応じてメモを書き加えていく。
4. 自分でしっかり考える。
5. わからないことがあれば周りの人に質問する。質問されたらいいいかに説明する。
6. 「わからないところ」をわからないままにしておかないで、その日のうちに解決する。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。 → その日に習ったことはその日のうちに理解する。
 - ・教科書の問題や例題を答えを見ずに解く。
 - ・授業中解いた問題をもう一度解く。
 - ・問題練習・・・ベシックマスター・完成問題集の問題を解いてみる。
 - ・その日の授業内容をまとめる。
2. 宿題は必ず家で行う。

5行まとめ

第1学年 理科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1学期	身近な自然に目を向けてみよう	身のまわりの自然を観察しよう	・身のまわりの自然について興味を持ち、科学的な調べ方の基本を身につける。
	【生命】 植物のくらしとなかま	1章 花のつくりとはたらき	・花の基本的なつくりの特徴とそれぞれのはたらきを、なかまをふやす植物のはたらきと関連づけて説明できる。
		4章 植物のなかま分け	・植物が体のつくりの特徴に基づいて分類できることを理解し、植物の種類を知る方法を身につける。
	【生命】 動物の生活と生物の進化	4章 動物のなかま	・脊椎動物の体のつくりや子の生まれ方の特徴などを比較、整理し、分類できる。 ・無脊椎動物の特徴を説明できる。
	わたしたちの身のまわりにはいろいろなものがある		・身のまわりのものの素材や性質について知ろうとする興味関心を持つ。
2学期	【物質】 身の周りの物質	1章 いろいろな物質とその性質	・物質には密度や電気の通りやすさ、加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを知り、実験器具の操作や記録の仕方などの技能を身につける。
		2章 いろいろな気体とその性質	・気体の種類による特性を知り、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。
		3章 水溶液の性質	・物質が水に溶ける様子や再結晶のできる様子を粒子モデルを使って説明できる。
		4章 物質のすがたとその変化	・状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。 ・物質は融点や沸点を境に状態が変化することや、沸点の違いによって物質の分離ができることを理解する。
	身のまわりにはどのようなしくみがかくされているだろうか		・身のまわりの現象のしくみを知ろうとし、興味関心を持つ。
【エネルギー】 不思議な現象 (光・音・力)	1章 光による現象	・光の反射や屈折の規則性を理解する。 ・凸レンズのはたらきについて理解し、物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を作図して説明できる。	
	2章 音による現象	・音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わることを説明できる。 ・音の高さや大きさは音を出す物体の振動の仕方に関係することを理解する。	
	3章 力による現象	・物体に力がはたらくと物体が変形したり運動の様子が変化することを理解する。 ・2力のつり合いとその条件について理解する。	
3学期	【地球】 活きている地球	1章 大地がゆれる	・火山の形や活動の様子及びその噴出物を、地下のマグマの性質と関連づけて説明できる。 ・マグマからできる火成岩の特徴を岩石のでき方と関連づけて説明できる。
		2章 大地が火をふく	・地震の揺れの大きさや伝わり方の規則性を知り、地震の原因や震央と震源の分布をプレートの動きと関連づけて説明できる。
		3章 大地は語る	・地層をつくる岩石の特徴や地層の堆積構造から地層のでき方を推測し、その根拠を説明できる。
		4章 自然が人間の生活におよぼす影響	・自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察できる。
通年	帰り学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

- 授業で行う学習活動に意欲的に参加しよう。
「身のまわりの生物や自然現象から学ぶ」気持ちで科学しよう。
「友達の発言」や「お互いの間違い」からも学ぶ気持ちで授業に出よう。授業規律も大切に。
実験・観察は考察を重視。結果より結果から考えよう。準備から片付け、レポート作りまでが実習。

II 家庭での学習

- 復習を中心に学習する。
教科書や授業ノートをもう一度見て、その日覚えた用語などを確認しておこう。
用語を正しく理解し、学習内容がつかめているか、教科書や副教材の問題をやってみよう。
忘れないように問題練習をくりかえしやってみよう。
- 科学に関するニュースやTV番組を積極的に見るなどして、正しい科学の知識をふやそう。(学校図書館も利用しよう。)
夏休みなどテーマを決めてじっくり科学研究や観察・採集に取り組むのもおすすめ。

第1学年 音楽科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・We'll Find The Way ・山手中学校校歌 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うときの姿勢、口のあけ方や呼吸法を知り、響きのある声で歌うことができる。 ・音程やリズムが正確にとれ、のびのびと意欲的に表現することができる。 ・音楽の良さや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で工夫して表現することができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割を考えながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。
	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞「四季」～“春” <p>合唱コンクール自由曲選曲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲構成の特徴に気づき、弦楽合奏の響きを味わうことができる。 ・曲の仕組みや演奏形態、作曲家についての詳細や、楽曲の歴史的背景を理解し、知識とすることができる。 ・作曲者の意図・心情を感じ取ったり、自分の感じたことをうまくまとめることができる。
2 学期	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・全校合唱曲(翼をください斉唱/校歌) ・学年合唱曲 ・クラス合唱曲 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うときの姿勢や口のあけ方、呼吸法などに気をつけ、響きのある声で歌うことができる。 ・音程やリズムが正確にとれ、のびのびと意欲的に表現することができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割を考えながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。 ・パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取って合唱することができる。 ・仲間と協力して、意欲的に練習に取り組むことができる。 ・他クラスの発表を聴いて、表現の特徴や良い点を聴き取ることができる。 ・詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取ることができる。
	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔王」 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の仕組みや演奏形態、作曲家についての詳細や、楽曲の歴史的背景を理解し、知識とすることができる。 ・作曲者の意図・心情を感じ取ったり、自分の感じたことをうまくまとめることができる。
3 学期	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・「浜辺の歌」 ・「赤とんぼ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うときの姿勢や口のあけ方、呼吸法などに気をつけ、響きのある声で歌うことができる。 ・音程やリズムが正確にとれ、のびのびと意欲的に表現することができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割を考えながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。
	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・邦楽鑑賞会に向けて和楽器に触れる。「箏」 ・「六段の調べ」 ・「巢鶴鈴慕」(尺八) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統音楽で演奏される楽器に関心を持ち、その特徴を理解することができる。 ・美しい音色や独特な奏法による演奏効果など、伝統音楽の特徴を感じ取ることができる。 ・作曲者の意図・心情を感じ取ったり、自分の感じたことをうまくまとめることができる。
	合唱	<ul style="list-style-type: none"> ・混声3部合唱曲を自分たちで選び、合唱する。合唱コンクール曲 ・卒業式歌「旅立ちの日に」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭で聞いた他クラスの合唱曲の良さを感じ、自分たちのものにする。 ・歌うときの姿勢や口のあけ方、呼吸法などに気をつけ、響きのある声で歌うことができる。 ・音程やリズムが正確にとれ、のびのびと意欲的に表現することができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割を考えながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。

学習の進め方

I 学校での学習

<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴るまでに準備物をきちんと持って音楽室に移動し、静かに着席し、落ちついて授業に取り組めるように準備しよう。 ・楽曲の演奏や練習に意欲的に一生懸命取り組もう。また、顔や身体全体も使って歌おう。 ・授業中は、教科書や楽譜を開け、どこを演奏しているのかを常に把握しよう。 ・授業中、楽曲の演奏に関してのアドバイスは、そのつど楽譜に書きとめよう。 ・記号や語句についての説明は、教科書にチェックして、その場で覚えていこう。

II 家庭での学習

<ul style="list-style-type: none"> ・数少ない音楽の授業に積極的に参加する気持ちが一番大切です。 ・定期テストの発表のときは、音楽セットを持ち帰り作詞、作曲、歌詞、音符、音楽記号を勉強してください。 又、歌の実技テストの前は家でも練習すると自信が付き、本番に良い合唱ができます。 ・プリント類やワーク、鑑賞曲についてはしっかりと復習しておこう。

第1学年 美術科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	絵画	人物クロッキー デッサンの基礎 空き缶デッサン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の使い方とクロッキーの基礎的な技術を身に着ける。 基本立体の書き方や明暗、立体感の表し方などデッサンの基礎的な技術を身につけることができる。 デッサンの基礎を作品に生かすことができる。 空き缶の形と模様をよく観察し描くことができる。 完成まで根気よく丁寧に取り組むことができる。 作者の心情や制作意図、表現のよさを感じ取ることができる。
2 学期	デザイン	空き缶デッサン レタリング基本 文字のデザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> レタリングの基礎について理解する。 文字の持つ意味や形に注目し、作品を工夫することができる。 道具の使い方を理解し、安全に使用することができる。 完成まで根気よく丁寧に制作に取り組むことができる。 作者の心情や制作意図、表現のよさを感じ取ることができる。
3 学期	彫塑	文字のデザイン 粘土の基礎 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 素材の特性を理解し、塑造の基礎を身に着けることができる。 作者の心情や制作意図、表現のよさを感じ取ることができる。

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をせず、準備物をきちんと用意し、ゆとりを持って制作に取り組めるようにする。
2. 今日の授業の目標をきちんと意識して、制作したり考えたりする。
3. 集中して授業に取り組み、自分の力を十分に出し切る。
4. 最後まで根気よく丁寧に制作に取り組む。

II 家庭での学習

1. 身近な美術作品に興味を持ち、鑑賞する。
2. テレビや新聞などのメディアから美術に関するさまざまな情報を収集する。
3. 展覧会などに行き、実際に作品にふれる。
4. 授業中に配られたプリントや、資料集を見て復習をする。

第1学年 保健体育科男子 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	集団行動	方向転換 集合・整列 列の増減	集団がまとまって動く意義を理解して、基本的な動作のきまりに従う態度を身につける。 姿勢、方向転換、集合、整頓、列の増減を正しく行うことができる。
	体づくり運動	力強い動きを高める運動 動きを持続する能力を高める運動 新体力テスト	自分の体力や生活に応じて、周りとの協力して運動を行うことができる。 体づくり運動の必要性に気づき、課題に応じた運動をする知識を身につける。
	陸上競技	リレー	全力を出して競争したり、記録を向上させる楽しさや喜びを味わおうとすることができる。 記録向上に向けて課題解決のためのチーム・個人練習をすることができる。
	陸上競技	短距離走 走り幅跳び	全力を出して競争したり、記録を向上させる楽しさや喜びを味わおうとすることができる。 助走をいかし、全身を使ってより遠くに跳ぼうと工夫することができる 自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。
	保健	からだの発育・発達 体育理論	からだの発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育・発達する時期があること、またその時期や程度には、人によって違いがあることを理解できる。 運動やスポーツの必要性和楽しさ、かかわり方、学び方を理解できる。
2 学期	器械運動	マット運動	自分の能力に適した課題をもって、技の習得をめざして粘り強く練習することができる。 仲間と協力して教え合ったり、練習の場を整えたり、補助し合ったりして進んで運動に取り組むことがで
	武道	剣道	剣道の伝統や特性を理解して、公正な態度で学習することができる。 技の習得だけでなく、仲間や練習相手に敬意をはらって安全に留意して学習することができ
	球技	ハンドボール バスケットボール	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。
	保健	生殖機能の成熟 心とからだのかかわり	思春期にはホルモンの働きによって生殖機能が成熟することを理解できる。 精神と身体には、密接な関係があり、互いにさまざまな影響を与え合っていることを理 きるようにする。
3 学期	陸上競技	長距離走(2000m)	全力を出して競争したり、記録を向上させる喜びを味わうことができる。 記録向上に向けて課題解決のための練習をすることができる。
	球技	サッカー	ルールを理解し、ルールに基づいてサッカーを楽しむことができる。 シュート、ドリブル、リフティングなどの基本的な動作を身につけることができる。
	保健	健康な生活	病気の発生要因と健康な生活について理解し、自らの生活に活かそうとすることができる。

学習の進め方

I 学校での学習

<ol style="list-style-type: none"> 1. 忘れ物をしない。すばやく行動し、大きな声を出して取り組む。 2. 説明や指示をきちんと聞き、コツややり方を理解して取り組む。 3. 得意不得意にかかわらず向上心をもって努力する。 4. 仲間と協力して補助や片付け、教えあいを積極的に行う。

II 家庭での学習

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を意識して、教科書を見直したりできることがあれば練習をする。
--

第1学年 保健体育科女子 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	集団行動	方向転換 集合・整列 列の増減	集団がまとまって動く意義を理解して、基本的な動作のきまりに従う態度を身につける。 姿勢、方向転換、集合、整頓、列の増減を正しく行うことができる。
	体づくり運動	力強い動きを高める運動 動きを持続する能力を高める運 新体力テスト	自分の体力や生活に応じて、周りと協力して運動を行うことができる。 体づくり運動の必要性に気づき、課題に応じた運動をする知識を身につける。
	陸上競技	短距離走 走り幅跳び	全力を出して競争したり、記録を向上させる楽しさや喜びを味わおうとすることができる。 助走をいかし、全身を使ってより遠くに跳ぼうと工夫することができる 自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。
	陸上競技	リレー	全力を出して競争したり、記録を向上させる楽しさや喜びを味わおうとすることができる。 記録向上に向けて課題解決のためのチーム・個人練習をすることができる。
	保健	からだの発育・発達 体育理論	からだの発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育・発達する時期があること、またその時期や程度には、人によって違いがあることを理解できる。 運動やスポーツの必要性和楽しさ、かかわり方、学び方を理解できる。
2 学期	球技	ソフトボール	基本的な技能の習得と、ルールを理解し、積極的にゲームを楽しむことができる。 教えあいや声かけしながら、協力して練習したり準備や片づけをすることができる。 自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。
	器械運動	マット運動	自分の能力に適した課題をもって、技の習得をめざして粘り強く練習することができる。 仲間と協力して教え合ったり、練習の場を整えたり、補助し合ったりして進んで運動に取り組むことができる。
	武道	剣道	剣道の伝統や特性を理解して、公正な態度で学習することができる。 技の習得だけでなく、仲間や練習相手に敬意をはらって安全に留意して学習することができ
	保健	生殖機能の成熟 心とからだのかかわり	思春期にはホルモンの働きによって生殖機能が成熟することを理解できる。 精神と身体には、密接な関係があり、互いにさまざまな影響を与え合っていることを理解できるようにする。
3 学期	陸上競技	長距離走(2000m)	全力を出して競争したり、記録を向上させる喜びを味わうことができる。 記録向上に向けて課題解決のための練習をすることができる。
	ダンス	ダンス	思い切り動く、感じを込めて動く、リズムに乗って動く、みんなでかかわりをもって動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとすることができる。
	球技	サッカー	ルールを理解し、ルールに基づいてサッカーを楽しむことができる。 シュート、ドリブル、リフティングなどの基本的な動作を身につけることができる。
	保健	健康な生活	病気の発生要因と健康な生活について理解し、自らの生活に活かそうとすることができる。

学習の進め方

I 学校での学習

1. 忘れ物をしない。すばやく行動し、大きな声を出して取り組む。
2. 説明や指示をきちんと聞き、コツややり方を理解して取り組む。
3. 得意不得意にかかわらず向上心をもって努力する。
4. 仲間と協力して補助や片付け、教えあいを積極的に行う。

II 家庭での学習

1. 自分の課題を意識して、教科書を見直したりできることがあれば練習をする。

第1学年 技術科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	技術分野の ガイダンス	社会と技術のかかわりについて、考えよう。	今の社会は人々の夢や、実現するために様々な工夫や技術革新によって成り立っていることを考えることができる。
		実習を安全に進める注意点を考えよう。	工具や機器等を安全に使用方法を考慮することができる。
		これからの学習について知ろう。	3年間の学習内容について見通しをもつことができる。
	1章 生物を 育てる技術の 特徴	生物を育てる技術を知ろう。	生物を育てるための技術の知識を身につけることができる。
2 学期	2章 生物を 育てるための 計画と管理	生物の育成計画を立て、育成しよう。	生物を育てる目的を考慮することができる。 生物の成長に合わせた育成計画をたてること 成長に合わせて適切な管理作業ができる。 植物の成長の様子などを適切に観察することができる。
		3章 生物を 育てる技術の 評価・活用	生物を育てる技術とわたしたちのかかわりを考えよう。
	1章 コン ピュータと情 報通信ネット ワーク	コンピュータの仕組みを知ろう。	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアを分類することができる。
		情報をコンピュータに取り込む仕組みを知ろう。	情報のデジタル化の方法や情報量について説明することができる。
		情報通信ネットワークの仕組みを知ろう。	情報通信ネットワークの構成を説明することができる。 情報機器を識別する工夫や情報を伝える工夫を考慮することができる。
3 学期	情報セキュリティについて考えよう。	情報セキュリティについて考えよう。	情報通信ネットワークの危険性を考慮することができる。 安全に情報システムを利用するための対策を考慮することができる。
		情報を安全に利用する方法を考えよう。	情報技術の特性を理解し、情報が社会に与える影響について考えることができる。 望ましい情報社会のために私たちが取るべき態度を考慮することができる。
	2章 デジタル 作品の設計・制作	文書処理をしよう。 プレゼンテーションをしよう。	デジタル作品の製作手順を知ることができる。 デジタル作品を設計し、製作することができる。 文書処理ソフトの基本操作ができる。 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。

学習の進め方

I 学校での学習

- ・忘れ物はしない。
- ・先生の指示をよく聞き、安全に実習や作業をすること。
- ・分からないことがあれば、先生に聞き、理解すること。
- ・作品の製作では、絶えず工夫すること、改善点が無いか考えること。

II 家庭での学習

- ・パソコンが家にある人はタイピングの練習や各種ソフトの使用方法を確認しておこう。
- ・テレビや新聞、インターネットなどからパソコンや情報に関する問題について知ろう。
- ・栽培について、経験者から聞いたりして、体験してみよう。

第1学年 家庭科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
	「家庭分野のガイダンス」	家庭分野の学習を始めよう	・小学校家庭科の学習内容を振り返り、中学校3年間の家庭科学習の見通しを持つことができる。自分の成長を振り返り、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられていることに気づく。今の自分ができることを点検することを通して課題を見つけ、3年後の自分をイメージする。
1 学期	「衣生活と自立」 1. 衣服の働きを考えよう 2. T. P. O. を踏まえた自分らしい着方を工夫しよう 3. 衣服の計画的な活用方法を考えよう 4. 必要な衣服を選択しよう 5. 衣服の手入れをしよう	・衣服の働き、目的に応じた着用 ・個性を生かす服装 ・和服の文化に触れよう ・衣服計画、衣服計画の立て方 ・既製服の選び方 ・既製服の表示、採寸 ・手入れの必要性、繊維や布の性質に応じた手入れ、衣服の汚れ 【課題】洗濯機による洗濯、ブラシかけ、ほころび直し、アイロンかけ 収納の方法(たたみ方、しまい方)、裁縫ミシンの使い方 ・資源・環境と衣服、資源の有効活用のために	・衣服の社会生活上の働きを説明できる。 ・TPOを踏まえながら、個性を生かした着方を工夫することができる。 ・衣服計画を立てることができる。 ・既製服を選ぶポイントを知る。 ・表示を正しく読み取って、既製服を選ぶことができる。 ・衣服の手入れの必要性が分かる。 ・衣服の材料や状態に応じて、適切な手入れができる。
2 学期	6. よりよい衣生活を目指して 「生活を豊かにするために」 ・生活を豊かにするための工夫をしよう	・計測、型紙の選び方、布の選び方、用具の準備と使い方 ③裁断 ④しるし付け ⑤まち針の打ち方 ⑥ミシン縫い ⑦【実習】トートバッグ	・環境や資源に配慮した衣生活を送るための課題を見つけることができる。 ・基礎的なミシン縫いや補修の技能を活用して、安全で能率よくバッグを製作できる。
3 学期	「わたしたちの食生活」 1. 食生活と栄養 2. 献立作りと食品の選択 3. 調理と食文化	1. 食事の役割について考えよう 2. 食生活の課題を見つけよう 3. 栄養素の種類と働きを知ろう 4. 中学生に必要な栄養について考えよう 1. 食品に含まれる栄養素を調べよ 2. 何をどのくらい食べればよいか考えよう 3. バランスの良い食事について考えよう 1. 日常食の調理をしよう	・食事の役割について理解することができる。 ・自分の食生活を振り返り、課題を見つけることができる。 ・健康に良い食習慣について考えることができる。 ・栄養素の種類と働きが分かる。 ・中学生の時期に必要な栄養の特徴について理解する。 ・身近な食品の栄養的特徴を調べることができる。 ・身近な食品を6つの食品群に分類することができる。 ・食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量がわかる。 ・必要な栄養素を満たす1日分の献立を考えることができる。 ・安全と衛生に気をつけて、調理することができる。 ・食品(肉・魚・野菜)の調理上の性質を知り、工夫して調理することができる。 ・環境のことを考えて、調理・後かたづけをすることができる。

学習の進め方

I 学校での学習

- 学習課題(本時の目標)をしっかりとりえ、頭と体と心をしっかり使いましょう。
- 実習では、基礎的・基本的な技術の習得をめざし、何事にも丁寧に取り組みましょう。
- 実習では、目標と方法を理解し、安全面と衛生面に留意して取り組みましょう。
- 自分自身を見つめ、自分のことが自分でできるようになるよう、生活の自立をめざしましょう。
- 自分の周りの家族、地域、社会、環境などに興味や関心を持ちましょう。

II 家庭での学習

- 家族の一員として、いろいろな家庭での仕事に取り組みましょう。
- 授業で学習した内容を生活に取り入れ、実践しましょう。

第1学年 英語科 年間計画

学期	単元	学習内容	学習内容を通して身につけたい力
1 学期	◆Get Ready 1～4 ◆Lesson 1 ◆Words and Sounds 1 ◆Let's Talk 1 ◆Lesson 2 ◆Words and Sounds 2 ◆Let's Talk 2 ◆Lesson 3 ◆Words and Sounds 3 ◆Let's Talk 3 まとめLesson 1～3	・アルファベットを覚えよう ・教室で使う英語 ・I am ……./ I am not …… ・You are …… ・Are you ……? ・100までの数字 ・I'm sorry. ・This[That] is …… ・Is that[this] ……? ・This is not …… / What is ……? ・He[She] is …… ・曜日と教科 ・What time ……? ・I have …… ・Do you know ……? ・I do not …… / What do you have?	・アルファベットの読み書きができる。 ・簡単なあいさつができる。 ・主語に応じてbe動詞が変化することを理解する。 ・be動詞が含まれた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・疑問文・否定文の意味・用法を理解し、表現できる。 ・英語で数字が言える、聞いて理解できる。 ・英語で自分の年齢や電話番号が言える。 ・相手の状態を確認して挨拶をする表現方法を理解できる。 ・Whatで始まる疑問文を理解し、それを使って表現できる。 ・英語での曜日をたずねたり、質問に答えたりすることができる。 ・What time で始まる疑問文の形や意味、用法、答え方について理解できる。 ・一般動詞の肯定文、疑問文、否定文が理解できる。 ・一般動詞を使って、自分のことが言える、相手に質問できる。 ・一般動詞を使った表現を理解できる。 ・場所についてたずねたり、質問に答えたりすることができる。 ・これまでに出てきた表現を復習する。
2 学期	◆Project 1 ◆発音とつづり ◆Lesson 4 ◆Words & Sounds ◆Let's Talk 4 ◆Lesson 5 ◆Words & Sounds 5 ◆Let's Talk 5 ◆Lesson 6 ◆Review ◆Words & Sounds 6 ◆Let's Talk 6 ◆Project 2 ◆Lesson 7	・自己紹介をしよう ・母音字と子音字 ・two bags / How many ~s? ・Use …… / Don't …… / Let's …… ・季節と月 ・How much is ……? ・Who is ……? ・Where do you ……? ・When do you ……? ・色と大きさ ・Whose …… is this? ・Miki plays …… ・Does Miki play ……? ・Miki doesn't play …… ・Where / When does Miki ……? ・人称代名詞・不可算名詞 ・いろいろな場所 ・Which …… A or B? ・友達の紹介文を作る ・Koji can play …… ・Can Koji play ……? ・Koji can't play ……	・名前・出身地・趣味等を簡単な英語で表現できる。 ・単語の中でのアルファベットの読み方の特性について理解し、上手に発音できる。 ・複数形や数のたずね方、命令文を理解し、それを使って表現できる。 ・四季と12か月を英語で表現できる。 ・値段をたずねたり、説明したりできる。 ・誰、どこなどのたずね方と、him/herの用法を理解し、使うことができる。 ・簡単な色と大きさについて、英語で表現できる。 ・持ち主をたずねたり、説明できる。 ・一般動詞の三人称単数現在形の肯定文、疑問文、否定文を理解し、表現できる。 ・異文化について知る。 ・人称代名詞と不可算名詞について理解し、正しく使うことができる。 ・地域の様々な施設を英語で表現できる。 ・相手の好みをたずねる表現を理解し、使うことができる。 ・友達にインタビューして聞き取った内容を英文でまとめることができる。 ・できることやできないことについて説明や質問をしたり、答えたりすることができる。
3 学期	◆Let's Talk 7 ◆Lesson 8 ◆Let's Talk 8 ◆Lesson 9 ◆Let's Talk 9 ◆Project 3 ◆Let's Read ◆Further Reading 1 ◆Further Reading 2	・Can I / Can you ……? ・Tom is studying …… ・Is Tom studying ……? ・Tom is not studying …… ・What is …… ~ing? ・How can we go to ~? ・Amy played …… ・Did Amy play ……? ・Amy didn't play …… ・Amy went to …… ・Why do you ~? ・大切なものを紹介する	・許可を求めたり、依頼したり、またそれに応じることができる。 ・現在進行形の肯定文、疑問文、否定文が理解できる。 また使うことができる。 ・ある場所への交通手段をたずねることができる。 また、質問に答えることができる。 ・過去の文の形や意味、用法、答え方について理解できる。 また使うことができる。 ・不規則動詞の活用を理解できる。 ・理由をたずね、また説明をする表現を理解し、使うことができる。 ・自分の大切なものを紹介する英文を作ることができる。 また、話すことができる。 ・英語の長文を読み、物語のあらすじをまとめることができる。 ・英語の絵本を読み、物語の内容を理解できる。 ・英語で書かれた日本の小断を読み、内容を理解できる。
通年	・新学習指導要領対応 中学校外国語教材 Bridgeを適宜利用する。 ・帰り学活前の10分間で既習事項の確認を行い、基礎的事項の習熟をはかる。		

学習の進め方

I 学校での学習

1. 本読み、単語読みなどをするときには、英語の発音、イントネーションに気をつけて大きな声でおこなう。
2. ペアワークなどの活動で英語を話す時は、積極的におこなう。指定された英語をしっかりと使う。
3. 授業での学習ポイントをノートにきちんと写す。
4. 教師の発問をしっかりと考え、答える。
5. 「わからないところ」をわからないままにしておかないで、必ず質問をする。

II 家庭での学習

1. 復習を中心に学習する。 → その日の習ったことはその日のうちに理解する。
 - ・授業で習った単語や本文を音読したり、音読筆写で覚えられるように復習する。
 - ・ワークブックを使って、文法事項や重要表現を復習する。
2. 宿題(ノート作り)は必ず行う。予習として、単語・本文写しはしておくこと。
3. 毎日勉強する。(自主学習ノートを活用し、授業ノートの写し直し等に取り組むと良い。)